

天溪ツアー「スイスアルプス縦走」旅行記(後編)

7月30日(土) 本日居残り組4名は、路線バスと列車を使って14名が山から下りてくるカンデルシュテークへ先回りする。我々居残り組が下界でのんびりしている頃、彼らは山上でスイス国旗を前に記念撮影していた。(ブリュームリスアルプ小屋付近 2,778m)



熊本の古場さん

カンデルシュテークは、世界遺産であるブリュームリスアルプの山々を望む山岳リゾートだ。



14名は、エメラルドグリーンに輝くエッシネン湖からゴンドラで降りてきた。



写真左: カンデルシュテークにてみなさんと合流し、路線バスとロープウェイを乗り継いでスンビュールへ、そこから昔の南北通商路を歩いて、シュバーレンバッハ小屋(今夜の宿泊先)へ向かう。
写真下: シュバーレンバッハ小屋 2,060m



夕食後、居残り組4名（浅野、篠田H、赤羽、篠田W）は、昨日グリースアルプ小屋で入念に練習した歌を披露する。



足手まとい

♪♪ 足手まといだから 別れて行きます ゆうべ四人きりで 決めました
赤沼さんにだまって 旅立つことは 身をきるような 身をきるような
思いです わかってくださいますね あなたなら

足手まといだから 別れて行きます 二人眠る夜は ないけれど
志波さんの未来に 私がいては お荷物だから お荷物だから
行くのです わかってくださいますね あなたなら ♪

筆者浅野の思いつきでやったことが、あれほど参加者のみなさんに受けるとは予想だにしなかった。家族的な天溪ツアー ならではのことだろう。天溪は永久に不滅です。どこかで聞いたような気が。

今回の天溪ツアーも残り少なくなってきた。明日からは「足手まとい」にならないよう頑張ろう。

（注）メロディーを知りたい方は「森雄二とサザンクロス 足手まとい」で検索してください。

7月31日（日）

写真左：篠田夫人が「足手まとい」
の歌詞をスイス国旗に寄せ書き中。
写真右：完成しました。



本日は、シュバーレンバッハ小屋からヴァリス州側の南北通商路をゲンミ峠 2,322m まで歩き、ロープウェイで温泉保養地のロイカーバードへ下る。昼食後、路線バスと列車を乗り継いで、マッターホルンの裏座敷であり、筆者浅野の思い出の地（後述）であるサースフェーへと向かう。

雨模様のなか、南北通商路をゲンミ峠へ向かう。



写真左:ロープウェイで温泉保養地のロイカー
バードへ下る。

写真下:ロッククライミング中のおじさんがいた

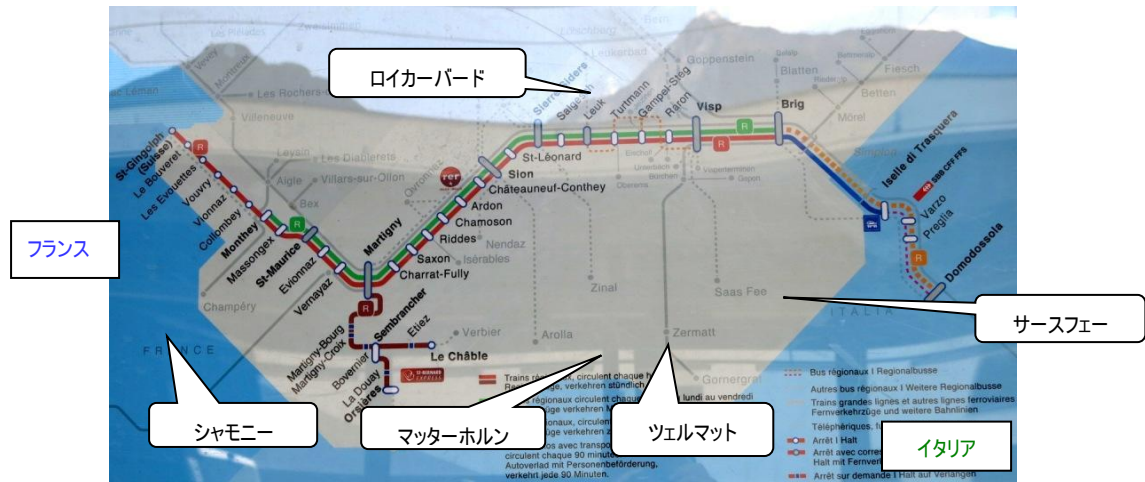


写真右:ロイカーバードの民家

写真左:ピザとパスタで腹ごしらえ



ロイカーバード Leukerbad からロイク Leuk へは路線バスで、Leuk からフィスプ Visp へは列車で、Visp からサースフェー Saas Fee へは路線バスで向かう。因みに、eu はドイツ語ではオイと発音する。ヨーロッパ Europa は、ドイツ語の発音では「おい 老婆」と聞こえることがある。自分のことかと思って振り向かないように。鉄道路線図と主要登山基地の位置関係(灰色部分がスイス)、グリンデルワルドはロイカーバードの東北方向にある。



ついに最終滞在地のサースフェーに到着した。筆者浅野にとって思い出の地でもある。聞くと涙、語るも涙の物語を次ページに記す。

♪ ♪ 小さな日記に つづられた 小さな過去の ことでした

私と彼女の 過去でした 忘れたはずの ことでした ♪

2007年6月末、浅野にとって初めての天溪ツアーは「花のスイスアルプスハイキング」であった。

そのとき宿泊したホテルはサースフェーの中心部からかなり離れた場所にあり、夕食会場は中心部を通り越した反対側にあった。ホテルのキーは2種類あり、1つは部屋の、もう一つは玄関のキーだ。外出する際は、部屋のキーをキーボックスにかけ、代わりに玄関のキーを持って出るというシステムだった。

夕食はウェルカムドリンクに始まり、庭でのアルプホルンの演奏、食事中のカウベルの演奏ほか楽しいものだった。余談ではあるが、この食事会場が今回宿泊した Hotel Alphubel だ。主人が亡くなったため、現在はアルプホルンやカウベルの演奏はない。(未亡人が跡を継いでいる)

食事会場からは、メンバーが三々五々ホテルへ帰った。篠田夫妻と一緒に帰った浅野は、ホテル前での篠田夫人の「福地さんは帰ったかしら」という言葉が気になっていた。部屋に戻って、彼女の部屋に電話したが反応がない。ドアをノックしても返事がない。こんなに遅い時間だ。浅野はあわててホテルの外へ飛び出した。しばらく歩いていくと、向こうから福地さんが一人で歩いてきた。何でも食事会場の前で我々を待っていたということだ。ほっとしてホテルへ戻る。

ホテル玄関でキーを差し込んだが2つとも合わない。福地さんは始めから、浅野はあわてて外へ飛び出したため、部屋のキーのままだったのだ。ホテルの管理人はとうに自宅へ帰っている。はたと困った。

何回も大声で叫んだり、玄関のドアをドンドン叩いたりしたが、寒冷地のホテルだけに、客室に聞こえるような造りではない。このまま2人身を寄せ合って朝まで過ごそうかとも考えたが、夏とはいえ標高 1,800m のサースフェー、しかも厚着ではない。あたりは町のはずれで灯りもなく、人通りもない。

何とかしなければと思い、町の中心部へ向かって歩き始めた。どの店も閉まっていた、灯りが消えていた。更に進むと、一軒だけ灯りがついている店があり、経営者と思しき女性がまだ仕事をしていた。

中に入れてもらい、流暢な英語で「かくかくしかじかで、〇〇ホテルを締め出された。何とか助けて欲しい。赤沼氏の携帯番号は部屋に置き忘れた。」と言ったら、あちこち電話してくれて、やっとホテルの管理人の家につながった。そのあと、親切にも彼女の車で我々のホテルまで送ってくれた。ほぼ同時に、鍵の束を持った管理人もホテルの玄関に到着し、一件が落ち着いた。めでたし、めでたし。

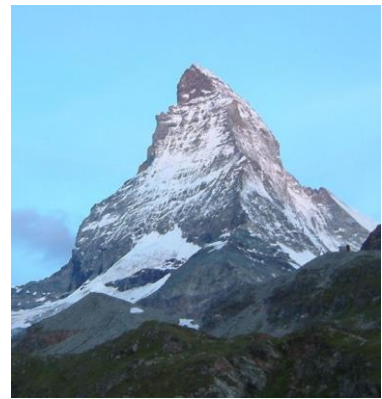
帰国後、助けてくれたサースフェーの女性宛に、流麗な英文で礼状を書いたのは言うまでもない。

尚、ここに登場する福地さんと篠田夫妻はこのツアーで初めてお会いし、今でもお付き合いしている。

2007年の思い出の写真

左：締め出された2人、福地さんは札幌在住、祝！日ハム優勝

中：アルプホルン演奏 右：朝のマッターホルン



8月1日(月) サースフェー ⇒ フェルスキン ～ プラッティエン ⇒ サースフェーフェルスキンからプラッティエンまで、雪渓と氷河と高山植物の三拍子揃った雲上のハイキング



上：標高 3,000m 付近の雪渓を進む

下左：氷河(退化が進んでいるという)

下右：野生のエーデルワイス



左：福地・浅野が締め出されたホテル、

当時とは名前が変わっている

右：キーボックス



サースフェーへ下りてきた。今日は4人ともよく頑張って、足手まといになることはなかった。これでもう登り下りはない。あとは日本への旅路の無事を祈るばかりだ。

8月2日(火) 一足先に関西空港へ帰る南川さん(左)と梅本さんをホテルの前にて全員で見送る。

恒例の「エーデルワイス」そして「この広い野原いっぱい」を浅野の指揮で斉唱。



♪♪ Edelweiss, edelweiss, every morning you greet me.

Small and white, clean and bright, you look happy to meet me.

Blossom of snow, may you bloom and grow, bloom and grow forever.

Edelweiss, edelweiss, bless my homeland forever. ♪



サースフェー ⇒ フィスプ ⇒ ジュネーブ空港



山内さんと赤羽さん

8月3日(水) 無事に成田空港着、それぞれの帰路につく。

ツアー参加者のみなさん、赤沼さん、志波さん、色々お世話になりありがとうございました。

次回は、足手まといにならない らくちんコース(例: ワイナリーツアー)でお会いしましょう。

この旅行記に登場した高齢者の一団は、後ろを振り返ることはない。見果てぬ夢を追い求め、さらに歩き続ける。
誰のためでもない、自分のための人生なのだから。

♪♪ 行く先を 照らすのは まだ咲かぬ 見果てぬ夢

遥か後ろを照らすのは あどけない夢

ヘッドライト・テールライト 旅はまだ終らない

ヘッドライト・テールライト 旅はまだ終らない ♪

完